

学籍番号 1432002

氏名 石坤

指導教員 寒竹 伸一

放水路の修景に関する研究

—東静岡地区大谷川放水路を対象として—

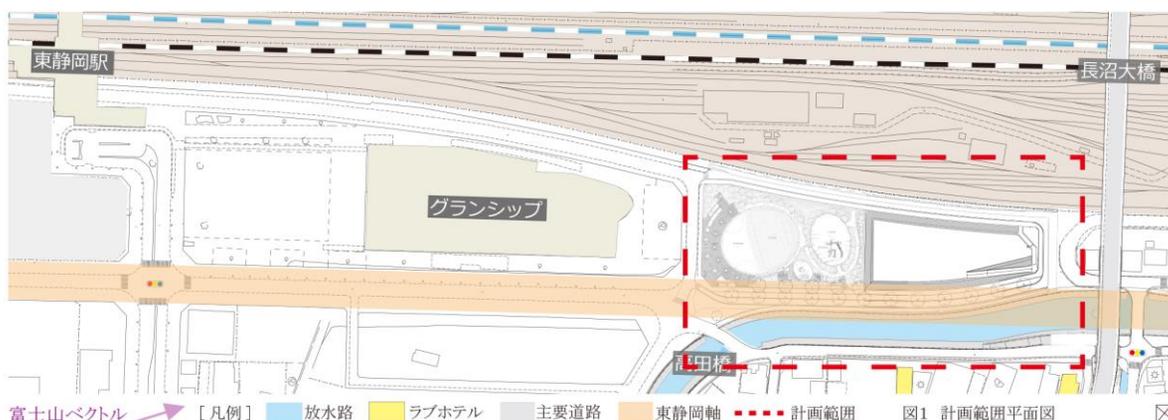


図1. 計画地範囲

1. 背景

大谷川放水路の景観が、静岡県で問題となっている。東静岡地区のグランシップ付近を流れる大谷川放水路は治水機能の重視した構造物のため、放水路と人間の関わり合いが薄い。

東静岡地区を流れる大谷川放水路は、東静岡駅と草薙総合運動場を結ぶ動線上に位置しており、多くの人びとの視界に入るものと思われる。大谷川放水路の修景は静岡県より求められている。(図1)

2. 目的

大谷川放水路に位置する既存調整池を多機能化し、放水路と一体化させることで、水辺空間を演出する。調整池のような巨大なコンクリート施設は、人びとの目に付くような場所にあるのは、人々に冷たい印象を与え、良くない景観として捉えている。富士山を取り入れ、周辺の環境と調和した良好な景観の形成に配慮していく必要がある。調整池の改修を行い、大谷川放水路の一部を修景することにより、コンクリート護岸の単調さを軽減し、都市景観を向上させ、放水路の利活用を推進することを目的とする。

3. 大谷川放水路の現状・問題

放水路両脇の管理道は、幅員に変化があ(2m~4m)。壁面、管理道路面の割れ目から、油類汚染水とみられる液体が湧き出ている。放水路南東側には、工場群が立地しており、工場排水と推測できる。水草が人間の目より高く生えているため、見通しが良くない。何箇所から家庭用排水が流れている。コンクリート擁壁は冷たい印象があり、垂直な壁面は雨水で汚れており、

護岸高さ7mで人に圧迫感を与える。

放水路の一部を修景することにより、コンクリート護岸の単調さを軽減し、都市景観を向上させ、放水路の利活用を推進することを目的とする。

4-1. 提案概要

大谷川放水路は、東静岡駅と草薙総合運動場を結ぶ動線上に存在する。アクセス方法として、多種多様なルートが考えられる。交通の利便性、総歩行距離の点において、上記のルートが最当該地域の特性として、グランシップ南側の強い軸線の意識、富士山眺望良好地域である2点が挙げられる。

本提案は、放水路左岸側に建ち並ぶラブホテルを回避しながら、草薙総合運動場へ人々を導く景観計画である。

4-2. 動線計画

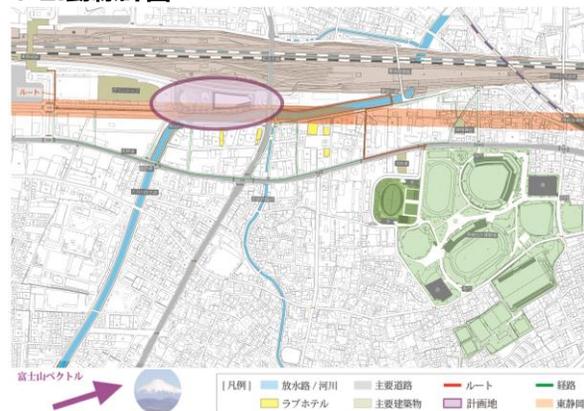


図2. 動線計画

東静岡駅と草薙総合運動場を結ぶ動線を形成させる。外来者(観光客、草薙総合運動場の利用者

など初めて東静岡地区に訪れる人)が迷うことなく目的地にアプローチできるように、スムーズな移動動線を計画する。(図2.3)



図3.動線計画

グランシップ南側のケヤキ並木を延長し、街路樹の統一を図る事で、空間的連続感を確保し、動線方向を示す。

街路と水辺を階段とスロープの組み合わせで結び、歩道のどこからでも入ってこられる動線を配置する。

長沼大橋の既存橋脚及び、管理用スロープを活用し、河床を通過し、左岸と右岸を繋ぐような回遊動線を計画する。(図4)



図4.親水空間俯瞰イメージ

4-3.親水空間の構成

1.調整池の改造

既存の調整池を改造し、周辺街路のどこからでも水辺に降りられるように、階段をすり鉢状に配置し中心に野外ステージを配置する。この階段は時には観客席として使用され、ステージの中心性を促す。また、既存道路を掘削し、河床レベルで放水路と野外ステージを繋ぎ一体感を生み出す。(図5)



図5.調整池改造イメージ

2.長沼大橋橋脚の活用

既存の長沼大橋橋脚の梁を強化し、上部にボンゴシを敷き、人が快適に歩ける橋台広場を作

り出す。木材を化粧材として用いる事で、コンクリートで造られた橋台の冷たい印象を緩和させることができる。

3.河床の活用

多様な生物が生息できるように、多孔質空間が多くなるように栈橋と沢渡りを配置し、生物を誘致し、人が近づけるような親水空間を造成する。

4-4.植物計画

放水路左岸側の工場やラブホテルへの視線を蔓系の植栽で緩く遮る。既存のフェンスを生かし絡ませ、次第に護岸に垂れコンクリートを緑に変える。植物の装飾機能と遮蔽機能が合わせ、景観にまとまりをもたらす。

樹木の並びにより街路の線形に沿って規則できに植栽した街路植栽により、歩行者に線形を分かりやすくさせ、人々を東静岡駅から草薙運動場まで誘導する。(図6)

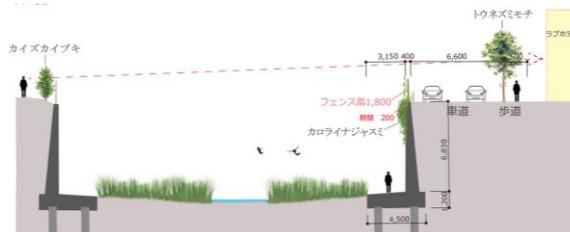


図6.植物計画断面図

4-5.安全対策

静岡市駿河区は降水量が多いのが特徴として挙げられる。年間を通して、いつ放水路が氾濫してもおかしくない状況である為、常設の警報設備の設置が必要となるだろう。そこで、本提案では、回転ランプを長沼大橋の橋下に取り付け、安全性の強化を図る。

4-6.生態系への配慮

大谷川放水路親水公園は、持続可能なよりよい親水空間を作することを目的とし、科学、経験、技術に基づき、植物、木材、石材などの自然景観材料を利用する。人間と自然との共生を図り、健康、安全、快適な親水空間を創出する。(図7)



図7.川床改造イメージ